

医学系研究科看護学専攻博士前期課程								学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)				
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
1		看護援助学特論	1		2		古賀 美紀他	現代および将来を見据えたヘルスケアシステムや質の高い看護援助を提供するために、科学的根拠に基づく実践の実現に向けて、看護学及び関連学問領域の概念や理論及びの理解を深める。これらの概念や理論を踏まえて、看護実践の場で発生している看護援助の問題を批判的に分析し、解決していくための研究方法について思考する。	1)看護の歴史と背景の中での看護援助の変遷を理解することができる。 2)変化するヘルスケアシステムに対応し、質の高い看護援助を提供するための概念や理念に関する見識を深める。 3)看護援助に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護援助の視点で批判的に分析することができる。 4)看護援助に関する問題に対して、原因を分析し、具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護援助の問題解決過程の方法を習得する。		○	○
2		看護援助学演習	1			2	古賀 美紀他	看護援助における活動を理論的かつ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。	1)看護援助学領域における課題を多面的に捉える。 2)事故の関心領域の研究の現状と課題を的確に捉え、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。 3)看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。		○	○
3		看護管理学特論	1		2		津本 優子他	看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、関係する組織・チームの調整・協働のもと解決していくための基礎的能力の修得を育成する。	1)看護管理学の歴史と背景を理解し、今日の保健医療福祉システムの中での看護管理の位置づけと課題を展望できる。 2)組織管理に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点で批判的に分析することができる。 3)看護マネジメントに関する現実的な問題に対して、原因を分析し、関係する組織・チームの調整・協働を基盤とした具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護管理の問題解決過程の方法を習得する。		○	○
4		看護管理学演習	1			2	津本 優子他	看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指す。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。	1)看護管理学領域における課題を多面的に捉える。 2)自己の関心領域の研究の現状と課題を的確にとらえ、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。 3)看護管理に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチの手法を修得する。		○	○
5		地域・在宅看護学特論	1		2		選考中	地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史的変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解する。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学ぶ。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学ぶ。	1)地域看護に関する基本的概念や理論について理解する。 2)地域看護が展開されるさまざまな場における地域保健活動も視野において、地域で生活する人々の健康づくりと保健行動を支援するための知識・技術を習得する。 3)個人家族、集団、組織の健康レベル向上の課題を理解し、効果的な看護支援方法を学ぶ。		○	○
6		地域・在宅看護学演習	1			2	選考中	地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指す。	1)地域看護学領域における国内外における研究の動向と最新の知見を理解できる。 2)研究テーマに関連した文献レビューやクリティークを行い、研究テーマに関する課題を明確にできる。 3)研究課題に基づき研究計画を作成することができる。 4)研究を行うために不可欠な研究倫理を理解した上で研究を実施することができる。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
7		母子看護学特論	1		2		秋鹿 都子	ライフサイクルと生涯発達の見点から、子どもと家族が抱える身体的、心理社会的な問題を理解し、QOLの向上ならびに健全な発達を促すための支援について探求する。そのために関連する概念や理論、母子保健・福祉、小児医療・保健・福祉・教育の現状と課題について学習する。	1) 母子保健・福祉の現状と課題について理解する。 2) 小児医療・保健・福祉・教育の現状と課題について理解する。 3) ライフサイクル、生涯発達に関する概念や理論について理解する。 4) 子どもと家族を取り巻く現代の社会状況を多面的に理解し、身体的、心理社会的側面の問題について理解する。 5) 子どもと家族のQOL向上ならびに健全な発達を支援するために、諸理論を活用し、看護の果たす役割と援助方法について探究する。		○	○
8		母子看護学演習	1			2	秋鹿 都子他	母子看護学領域における先行研究の文献検討を通して自らの研究テーマを明確にし、実行可能な研究計画書を作成する。この過程から基本的な研究能力の獲得をめざす。	1) 母子看護領域における国内外の研究動向について理解できる 2) 関心あるテーマについての文献検討を行い、自らの研究テーマを明確にできる 3) 研究テーマに適した研究デザイン、研究方法を選択できる。 4) 研究テーマについて倫理面を考慮した研究計画書を作成することができる。		○	○
9		がん看護学特論	1		2		選考中	がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を学習する。また、がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究結果と対照しながら考察を深める。そして、それらを活用し、治療・療養過程にあるがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解し、生活の質を高める専門的な看護援助のあり方を探求する。がん看護専門看護師の活動を理解すると共に、がん患者を理解し援助するための看護の諸理論を看護 実践に適用し、説明できる思考能力の育成を目指す。	1) がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を理解する。 2) がんとともに生きる人々とその家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる主要な概念・理論を踏まえ、実践への適用について探求する。 3) がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究結果と対照しながら考察を深め、治療過程に在るがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解する。 4) がん患者とその家族が抱える全人的苦痛や諸問題に対して包括的な支援を提供できるよう、患者とその家族のQOLの維持向上を目指したエビデンスに基づく専門的な看護援助について探求する。 5) がん看護専門看護師の歴史や活動、果たす役割を理解する。		○	○
10		がん看護学演習	1			2	選考中	がん看護学領域における先行研究について文献検討し、がん患者とその家族のQOL維持向上を目指してがん看護学領域の知識発展のための適切な研究課題を立てると共に、自身の研究課題をこれまでの知識蓄積の中で適切に位置づける。そして、倫理的に研究が実行できる研究計画書を作成し、特別研究・課題研究につなげていく。以上のプロセスを通じて、基本的な研究能力の獲得を目指す。	1) 課題の明確化 ・がん患者やがん医療を取り巻く状況を分析して、がん看護が研究的に取り組むべき 課題を抽出する。 ・関連文献をまとめてプレゼンテーションを行い、取り組もうとする課題の周辺や明らかになっているエビデンスを整理する。 2) がん看護領域の研究論文クリティーク ・国内文献及び海外文献をクリティークし、関心領域の研究状況を明らかにする。 3) 研究デザイン、研究方法の決定 ・研究課題を明確にして、最も適切な研究方法を選定する。研究デザインの精練方法を学ぶ。 4) 研究計画書の作成 ・研究課題にもとづき研究計画書を作成するプロセスを学ぶ。 ・整合性のある研究計画を精練する訓練を行う。 ・倫理的配慮を確実に実行できるよう、研究における倫理的感受性を身に付ける。 ・研究計画書を作成する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身に付 けていること。
11		高齢者看護学特論	1		2		原 祥子他	複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して高度な看護援助を展開するためには、老年看護に関する基本的な概念や諸理論に基づき、加齢のプロセスで生じる健康問題と生活・人生への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。老年看護の基本的概念や理論を学び、それらを看護実践に活用できる能力の開発を目指す。	1) 老年看護に関する基本的概念や理論について理解する。 2) 老人看護専門看護師の役割と機能について理解する。	○	○	
12		高齢者看護学演習	1			2	原 祥子他	各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究する。	1) 高齢者看護における国内外の研究の動向を把握する。 2) 自己の問題意識と追究課題を絞り込む。 3) 自己の研究課題の位置づけについて、看護実践の改善や看護モデル開発の視点で捉える。 4) 研究方法を具体化させるプロセスを理解する。 5) 高齢者看護研究における倫理的側面を理解したうえで、効果的に研究を推進していくための方法を修得する。	○	○	
13		助産学特論	1		2		松浦 志保他	助産学の概念、意義、母子保健・医療・福祉政策、看護政策の動向、女性、子ども、パートナー、家族がおかれている社会的背景・状況、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題について学修し、助産師に期待される役割、責務、活動範囲について考察し、対象に必要な援助を追求できる能力を培う。助産師として対象の尊厳と権利を尊重した専門職的倫理を理解し、助産師の責務と規範を学ぶ。	1) 助産の基本概念を理解し、助産師としてのアイデンティティ確立の動機とする。 2) 助産業務に関わる倫理規定や法律について理解する。助産師の専門職性を理解する。 3) 助産師と倫理について理解し、助産師の基本的態度について考えることができる。 4) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの背景と現状を理解し、今日的課題について考える。 5) 女性と家族の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウイメンズヘルスにおける助産ケアについて考察する。	○	○	
14		助産学演習	1			2	松浦 志保他	生涯発達看護学分野の看護・保健・医療・福祉の研究論文のクリティークを行い、女性や家族に関する健康問題や課題、解決に向けた看護実践を見出すためのプロセスを学ぶ。研究テーマとそれに適した研究デザイン、研究計画を検討し、課題研究へと連動させる。	1) 自己の関心領域の研究の現状と問題を多面的に捉え、自らが取り組むべき課題を捉えることができる。 2) 看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。 3) 文献の批判的吟味ができる。	○	○	

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
15		がん薬物療法看護援助論	1			2	選考中	がん薬物療法看護論で学んだ知識を基盤として、代表的疾患(腫瘍)の標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を 探求する。がん患者が抱える薬物療法過程で生じた身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や 日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。そして、患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。	1)がん患者が抱えるがん薬物療法過程で生じやすい身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や 日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。 2)代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法を確定するプロセスや科学的根拠に基づく治療の プロセスについて理解し、標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンを理解する。 3)代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象を理解し、 有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を習得する。 4)がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響やガイドラインに基づく支持療法を理解し、患者・家族のセルフマネジメントを促進する援助方法を習得する。 5)患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的 側面から探求する。 6)がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援について全人的にアセスメントし、治療中の 生活の質を維持し高めるために、治療過程にあっても患者が自分らしく日常生活を過ごせるためのエビデンスに基づく看護援助の方法を探求する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
16		緩和ケア演習	1			2	選考中	<p>がん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩を理解し、適切な臨床判断に基づいた症状マネジメントについて学ぶ。並びにがんの進行やがん治療に伴い生じる患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に向けて、包括的な介入ができるための看護援助の方法を探究する。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族のQOL向上を目指した高度ながん看護実践能力の開発に向けて、研究成果の活用やエビデンスに基づく臨床判断、的確なアセスメント、援助の方法、看護実践の評価について理解する。緩和ケアに関するフィールドワークや事例検討、実技演習を通じて、患者とその家族への適切な援助方法を検討すると共にがん看護専門看護師の果たす役割を考察し、緩和ケア領域における専門的な看護援助ができるための能力開発を探究する。</p>	<p>1) 緩和ケアの概念や歴史、エビデンスに基づく緩和ケアの実践について理解する。 2) 緩和ケアに用いられる薬剤の機序と主作用・副作用・相互作用を学び、薬剤の適切で安全な使用方法を理解する。 3) セルフケア理論に基づく症状マネジメントの看護学的アプローチを習得する。 4) 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての臨床判断過程、患者とその家族のニーズに沿った専門的な援助方法の検討、看護実践の評価について理解する。 5) がん患者の身体的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。 6) がん患者の精神的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。 7) がん患者の実存的苦痛を理解し、適切で専門的な看護援助の方法を検討する。 8) がんがもたらす苦痛や苦悩、がんの進行やがん治療に伴い生じる患者の苦痛を全人的に理解し、苦痛緩和に向けた包括的な介入ができるための臨床判断過程とエビデンスに基づく専門的な看護援助の方法を検討し提案する。 9) がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けて、緩和ケアにおけるがん補完代替医療についてその内容とエビデンス、支援方法を理解する。 10) 緩和ケアにおける地域連携や在宅緩和ケアの実際と課題、並びにがん看護専門看護師の果たす役割を理解する。 11) 緩和ケアにおける鎮静に関する既習の知識を基盤として、事例をもとに倫理的問題や意思決定支援について思考を深める。 12) がん相談支援の事例から患者家族が抱える苦悩を理解し、緩和ケアにおける家族への相談支援のあり方を検討する。 13) 緩和ケアにおける患者とその家族への看護カウンセリング技術を習得する。</p>		○	○
17		がん看護実習 I	1			2	秋鹿 都子他	<p>卓越したがん看護実践能力を開発することを目標とする。複雑な健康問題をもつがん患者とその家族に対して質の高い卓越した看護を提供するために、キュアとケアの統合による専門的知識と的確な臨床判断、直接的ケアの習熟化を目指す。看護実践の中で理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。がん看護実践上にある複雑で解決困難な問題をもつ事例を取り上げ、その解決方法を検討する(3事例程度)。また、実習期間中に実習指導者や教員参加のカンファレンスを企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、臨床判断能力や看護援助の質を高める。がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発すると共にチーム医療が十分に機能し活性化するためのがん看護専門看護師として機能を考え、役割開発について考察する。</p>	<p>1) がん患者を全人的に理解し、患者の体験や患者を取り巻く現象を論理的に説明する。 2) 複雑で解決困難な問題をもつがん患者とその家族に対して、治療・療養過程における問題解決のために、専門的知識と的確な臨床判断に基づく質の高い直接的ケアを実践する。 3) 理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。 4) がんチーム医療が十分に機能し活性化するために、専門看護師の立場から問題解決能力や調整力、指導力を身につける。 5) 実習を通して、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、役割開発について考察する。</p>		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
18		がん看護実習Ⅱ	1			2	選考中	<p>がんに関わる看護職は、理学所見と検査データに基づき患者の状態を評価できること、治療内容と治療選択の根拠を理解すること、治療効果や有害事象を科学的に評価すること等の臨床判断能力と、それらに基づいた身体管理を行うことが求められる。本科目では、がん診療連携拠点病院において、がん治療の専門医の指導の下でがんの患者を担当し、患者を客観的に評価し、診断に至るプロセス、検査所見の解釈と判断を行う臨床判断能力を習得し、それらに基づいた身体管理を体験する。そして治療中、治療後に客観的に患者を評価し、治療効果の判定や有害事象を予測できる臨床判断力と、それらの結果に基づいた身体管理方針を考える能力を習得する。また、在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。患者や家族の置かれた状況を理解し、その後の方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。</p>	<p>1)がん患者の治療前後の状態を、理学所見、検査所見に基づき客観的に臨床判断できる。 2) 臨床判断過程を理解し、治療と身体管理方針が選択された根拠を述べることができる。 3) 患者のステージ、予後等をデータに基づいて臨床的に判断できる。 4) 治療を受けた患者の状態を客観的に評価し、特に副作用の発現を臨床的に判断できる。 5)副作用の有無と程度に基づき、身体管理計画を立てることができる。 6)治療後の状態と所見を客観的に評価し、治療効果を臨床的に判断できる。 7)治療効果の判定に基づき、身体管理方針を立てることができる。 8)オンコロジー・エマーゼンシーを臨床的に判断し、適切な身体管理を計画できる。 9)がんゲノム医療の適応と限界を体験し、診断に基づいた身体管理計画を考えることができる。 10) 担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。 11)在宅がん患者の状態を臨床的に判断し、それらに基づき身体管理方針を述べることができる。 12)がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用等の臨床判断と身体管理に関するいずれかの内容をスタッフに講義することができる。</p>		○	○
19		がん看護学実習Ⅲ	2		2		秋庭 都子他	<p>がんの治療期や医療施設から在宅療養の場を移行する時期、ならびに移行後のがん患者・家族に対し、シームレスな看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師の指導のもとでの看護実践を通し、在宅療養期や終末期にあるがん患者・家族のQOL向上を目指した症状マネジメントと緩和ケアの実践を学ぶとともに、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。</p>	<p>1)在宅療養にかかわる多職種連携・協働について、具体的な実践に結び付けるための方略を習得する。 2)在宅療養にかかわる多職種連携・協働において、がん看護専門看護師の果たすべき役割について理解する。 3)地域医療連携におけるがん治療の連携、がん相談支援の実践について理解する。 4)治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題について理解する。 5)治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題に対して実践される、専門知識・技術、的確な判断に基づいた看護の実践について理解する。 6)がん患者・家族の在宅療養を支える上でのがん看護専門看護師としての役割と、それを担う上での課題について、看護理論や先行研究と関連づけて探究する。</p>		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
20		がん看護学実習Ⅳ	2		2		秋鹿 都子他	優れた看護を継続的に実践しているがん看護専門看護師と共に行動し、がん看護専門看護師に求められる6つの役割、機能とその意義を理解する。また、がん看護専門看護師が行う熟達した役割実践活動に同行し、がん看護専門看護師が役割を開発・遂行する戦略や方策の実践を学ぶ。そして、役割開発に向けた自己の課題を明らかにする。	1)がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な看護実践の目的・内容について考察する。 2)がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や方法について考察する。 3)患者・家族のQOL向上を図る上で必要なケアが円滑に提供されるためにがん看護専門看護師が行う多職種間の調整について考察する。 4)がん看護専門看護師が行う倫理的問題の明確化、ならびに解決に向けての調整について考察する。 5)がん看護専門看護師が患者や家族、看護師に向けて行っている教育活動の目的・内容について考察する。 6)がん看護専門看護師が関わっている研究活動の目的・内容、意義について考察する。 7)がん看護専門看護師の役割開発や役割達成に向けた戦略や方策について考察する。 8)がん看護専門看護師としての役割を遂行する上での自己の課題について、看護理論や先行研究の結果と実践を関連づけて探究する。		○	○
21		がん看護学実習Ⅴ	2			2	秋鹿 都子他	がん看護専門看護師としての役割遂行能力を体験的に養うことを目標とする。既習の講義や実習における学習内容を基盤として、がん患者とその家族のニーズに応じてがん看護専門看護師としての役割が果たせることを目指し、専門看護師の役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のうち、いくつかについて専門看護師の役割を実行する。実習施設において、がん看護専門看護師が貢献できる課題をアセスメントし、専門看護師が果たす役割を計画・実施・評価する。臨地において事例検討会やカンファレンス、臨床講義を主体的に企画、開催し、がん看護専門看護師の立場から看護活動を創意工夫する。そして、組織における看護活動を通じて、がん看護専門看護師の役割の実践を学び、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、役割開発について考察する。	1)実習病院において、以下に示すがん看護専門看護師の活動と役割について体験を通して実践的に学ぶ。 (1)熟練した高度なケア技術とケアの知識を用いたがん患者とその家族に対する卓越した看護の実践 (2)がん看護に関わる看護職者のニーズに応じたケアを向上させるための教育や指導 (3)看護職者を含むケア提供者、関連職種からの相談への対応 (4)がん患者とその家族に対して、個別のニーズに応じた必要なケアが提供されるための保健医療福祉に携わる専門職者間の調整とリーダーシップ (5)がん看護実践にある倫理的な問題や倫理的葛藤の明確化と倫理調整及び看護介入 (6)がん看護の向上と開発のための実践の場における自己啓発(研究を含む) 2)がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え理解を深めて、さらなる役割開発について考察すると共に自己の課題を明らかにする。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
22		看護学課題研究	2	4			原 祥子他	<p>*がん看護CNSコース(担当:コース担当教員等) がん看護実践上の課題を探究するため、がん看護学領域における研究動向を踏まえて自己の研究課題を明確化、研究計画書を作成し、研究を実行する。データ収集・分析の過程を通じて研究手法に関する理解を深めると共に論旨一貫性のある研究論文を作成する。</p> <p>*老人看護CNSコース(担当:原祥子教授) 高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究する。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施する。課題研究の成果は、修士論文として作成する。</p> <p>*助産学コース(担当:松浦志保准教授) 女性、子ども、家族の性と生殖に関する健康と権利に関する問題や課題を見出し、これらを解決する助産実践の方法や対策について探求する。このプロセスを修士論文として作成し、発表する。</p>	<p>1) 研究計画を立案し、研究計画に沿って研究活動を展開できる。 2) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。</p>	◎	◎	◎
23		高齢者アセスメント論	1		2		原 祥子	<p>高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、健康生活上に関する評価方法とその技術を活用し、高齢者の身体的・精神的・社会的側面にわたる健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者やその家族の質の高い生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。</p>	<p>1) 高齢者健康生活上評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。 2) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。</p>		○	○
24		老年高度看護実践論	1		2		原 祥子他	<p>複雑かつ多様な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、専門的知識と理論を踏まえるとともに倫理的な看護判断に基づき、CureとCareを統合した看護援助ができる能力を開発する。</p>	<p>1) 入院治療を受ける高齢者における、入院に伴って生じるリスクとリスク管理、CureとCareを統合した看護援助、円滑な在宅移行に必要な連携と調整について説明できる。 2) 介護保険施設を利用する高齢者ケアの現状と課題を理解し、CureとCareを統合した看護援助、多職種連携・協働の体制づくりと看護の専門性について説明できる。 3) 在宅療養する高齢者と家族への支援の実際と課題を理解し、在宅での疾病管理、CureとCareを統合した看護援助について説明できる。 4) 高齢者のエンドオブライフケアの現状と課題、エンドオブライフの医療・ケアに関するガイドライン等を理解し、高齢者に起こりやすい症状や苦痛のアセスメント、緩和ケアを含むCureとCareを統合した看護援助、倫理的問題と倫理調整について説明できる。</p>		○	○
25		高齢者サポートシステム論	1			1	原 祥子他	<p>高齢者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学ぶ。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発する。</p>	<p>1) 高齢者サポートシステムの現状について理解できる。 2) 高齢者・在宅ケアにおける連携システムづくりについて考察できる。 3) ケアマネジメント実践の基礎的知識と理論に基づいたケアプラン立案と実施・評価までの一連の実践方法を学ぶ。 4) 病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能について理解できる。</p>		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
26		老年慢性期ケア演習	1			2	原 祥子他	慢性期治療・ケアの場において高齢者とその家族に生じる複雑かつ多様な健康問題を理解し、高齢者の可能性や強みを活かしながら解決に向けていく援助方法を学ぶとともに、必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整や倫理的な問題・葛藤についての倫理的調整、看護職者を含むケア提供者に対する相談の各役割を果たすことのできる基礎的能力を開発する。	1)慢性期治療・ケアを受ける高齢者とその家族に生じる健康問題を理解し、高齢者とその家族への高度看護実践を展開する方法について説明できる。 2)慢性疾患や障害をもつ高齢者とその家族へのCureとCareを統合した看護実践について説明できる。 3)慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族に対して必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整方法について述べる事ができる。 4)慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族における倫理的課題の解決に向けた倫理調整や、コンサルティの成長を導く相談のプロセスについて述べる事ができる。		○	○
27		高齢者看護学実習Ⅰ	1			6	原 祥子他	慢性期治療を受ける高齢患者とその家族に対する、医療チームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。また、実習を通して、高齢者看護ケアを改革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。	1)既習の理論やモデルを適用し、慢性期にあり複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。 2)医療チームの一員として展開された看護実践、実習指導者の指導のもとに(実習指導者とともに)行われた相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。 3)高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。 4)スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。		○	○
28		高齢者看護学実習Ⅱ	2			4	原 祥子他	複雑な健康問題をもつ認知症高齢者とその家族に対する、ケアチームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。また、実習を通して、認知症高齢者ケアを改革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。	1)既習の理論やモデルを適用し、複雑な健康問題をもちながら療養している認知症高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。 2)ケアチームの一員として展開された看護実践、実習指導者の指導のもとに(実習指導者とともに)行われた相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。 3)高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。 4)スタッフへの教育的働きかけや多職種協働の環境づくりにおける老人看護専門看護師の役割を理解する。		○	○
29		生殖器病態生理学	1		1		橋本 龍樹他	女性のライフサイクルを通じた性と生殖の疾患及び異常に関する基礎的知識の理解と科学的根拠に基づいた産前産後のケアおよび分娩助産を実施するため、女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、受精、妊娠のメカニズム、妊娠管理の生理学的、病理学的基盤と妊娠各期に起こりやすい異常の病態生理について学ぶ。	1)女性生殖器の解剖・生理ならびに女性性周期について理解する。 2)妊娠の成立と胎児胎盤系の解剖生理について理解する。 3)女性のライフサイクル各期における性と生殖の健康問題について理解する。 4)女性のライフサイクル各期における婦人科疾患について理解する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
30		助産薬理学	1		1		矢野 貴久他	薬理学の基礎(作用機序、代謝経路、半減期等)とともに、妊産婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について解説し、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解を深める。さらには母体救命救急に使用する薬剤取り扱い上での基礎的知識を修得する。 思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される和漢薬についての知識を深める。	1)薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を学習する。 2)妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。 3)産婦に頻用される薬剤について知識を深める。 4)妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深める。 5)母体救命救急に使用される薬剤についての基礎的知識を学習する。		○	○
31		女性の健康教育学	1		2		松浦 志保他	健康教育の理論を活用して、女性と子ども、その家族のリプロダクティブに関連する心身の健康、各ライフステージにおける健康課題を踏まえた健康教育について理解し、対象集団・個人の特性を考慮した健康教育の在り方について学修し、考える。 対象のアセスメントを行い、健康教育学習指導案を立案し、対象の行動変容に向けた健康教育や保健指導を展開する能力を培う。	1)女性のライフステージに対応した健康教育の意義が説明できる。 2)健康教育の理念、モデル、健康教育を展開する上での方法について説明できる。 3)健康教育の企画・実施・評価を行い、健康教育に必要な知識・技術を習得する。 4)性や生殖、セクシュアリティなど女性と子どもの健康に関連する概念について説明できる。 5)包括的性教育の基本概念について理解し、日本における性教育の課題について考察する。		○	○
32		地域母子保健学	1		1		松浦 志保他	地域母子保健の今日的課題について理解し、地域母子保健の意義について理解する。また、地域母子保健の政策・事業を概観し、その活動状況や課題を調査・分析し、その評価や対策について考え、地域母子保健活動における助産師の役割について考察する。	1)地域母子保健の意義について説明できる。 2)地域母子保健に関わる事業および政策について説明できる。 3)地域における母子保健の課題について説明できる。 4)地域母子保健活動における助産師の役割について考察できる。		○	○
33		妊娠期助産診断・技術学	1		1		松浦 志保他	ローリスクおよびハイリスク妊婦の基本的な妊婦管理について学び、正常な妊娠経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術を修得する。	1)正常な経過における基本的な妊婦管理を理解する。 2)正常経過およびハイリスク妊婦に対する助産過程の展開方法を修得する。 3)妊娠期の女性とその家族のアセスメントおよび具体的なケア方法を理解する。 4)胎児の成長発達と妊婦健康診査における観察(問診、計測診、胎児心拍数モニタリング)の方法とアセスメントについて理解する。		○	○
34		分娩期助産診断・技術学	1		2		松浦 志保他	ローリスクおよびハイリスク産婦の管理について学び、正常な分娩経過のサポート、生理的状態からの逸脱を予測し、必要な助産ケアを行うための助産診断と助産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得する。	1)分娩期にある女性と胎児の心身の生理的なプロセスと生理的状態からの逸脱を助産診断するために必要な知識を修得する。 2)産婦の健康状態、正常な分娩経過と正常からの逸脱について根拠をもって助産診断することができる。 3)科学的根拠に基づいた分娩助産と助産ケア技術について修得することができる。 4)女性に寄り添う助産実践や分娩期における助産師の役割について考察できる。 5)胎児の異常とその原因・要因、治療、管理について学び、その援助および予防に向けた助産ケアについて修得する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
35		産褥・新生児期助産診断・技術学	1		2		松浦 志保他	ローリスクおよびハイリスク産婦と新生児の管理について学び、 母児の出産後の正常な経過をサポートするための助産診断と助 産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得す る。乳幼児期の子どもの成長発達および生活環境を理解し、退 院後の母児への継続的な援助を行う知識と技術を修得する。	1) 産婦の生理的な身体的変化、心理的变化、社会的変化、そして 正常な妊娠経過とそ の逸脱状態について理解できる。 2) 産婦の健康状態、正常な妊娠経過と正常からの逸脱について根 拠をもって助産診断 することができる。 3) 産褥期の助産過程の展開に必要な知識と技術を習得する。 4) 母乳哺育に関するケアの基本的知識と技術を実施できる 5) 胎児・新生児の身体的変化、分娩経過から胎児・新生児の逸脱 状態について助産診断できる。		○	○
36		助産臨床推論	1			1	橋本 龍樹他	より自律した産師の育成を図るため、臨床推論の基本的な概念 を理解し、臨床診断における診断の概念や疾病の定義、診断仮 説(鑑別診断)の設定および確定診断への絞り込みのプロセスを 習得する。	1) 臨床推論に関連する基本的な概念を理解する。 2) 対象の主訴から疾患の頻度と重症度、緊急度の高い症状・病態 の確定診断を絞り込む臨床診断の思考プロセスを習得する。 3) 妊娠・分娩経過が正常から異常に移行するリスクを速やか、か つ、適切に判断する力を培う。		○	○
37		助産管理学	1			2	松浦 志保他	マネジメントの基本的考え方を学び、周産期医療の質と安全を担 保する助産管理と目標管理について学修する。 臨床・地域の健康問題や課題の解決に向けた看護・助産の政策 的働きかけと政策提言までのプロセスについて理解を深め、専門 領域から政策提言ができる基礎的能力を培う。	1) マネジメントの基本的考え方を理解し、助産管理の在り方につ いて考える。 2) 目標管理について理解し、自身の目標管理を考えることができ る。 3) 様々な助産実践の場での(総合病院、診療所、助産所)における 管理運営(医療法・保助看法、安全性)について理解できる。 4) 周産期医療システム、助産師外来・院内助産など助産管理運営 について理解する。 5) 看護の政策的働きかけと政策提言について学修し、臨床や地域 の周産期医療、母子保健の現状の改善と課題解決に向けた方策・ 運営について理解できる。		○	○
38		助産学実習 I	1	9			松浦 志保他	妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産実践を、科学的根拠 に基づいて実践できる能力と正常からの逸脱を予防するための 助産診断力および実践力を修得する。この過程を通し、助産師の 責務と規範を学びつつ助産師としてのアイデンティティを育む。	1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個性を理 解することができる。 2) 妊娠期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて 考え、実践できる。 3) 分娩期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて 考え、実践できる。 4) 分娩期の産婦と胎児の正常性からの逸脱、異常兆候を予測し、 適切な時期に報告、医師と協働し助産ケアを考えることができる。 5) 産褥期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアについて 考え、実践できる。 6) 新生児期の正常性を維持・改善・増進するための助産ケアにつ いて考え、実践できる。 7) 自分の行った助産ケアを振り返り、課題を明確にし、実践につな げることができるリフレクション力を修得する。 8) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、及び助産師の責任と 役割について考えることができる。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
39		助産学実習Ⅱ	1			2	松浦 志保他	ハイリスク妊産婦と胎児・新生児のもつ疾患・リスクおよびその治療・管理について学修し、身体・心理・社会的側面から統合的に対象を理解する力と助産実践力を養う。 ハイリスク児を持つ親とその家族を取り巻く社会環境や援助など様々な問題について学び、医療・福祉など地域関連施設の多職種との協働や連携のあり方、包括的なケアについて探求できる力を養う。ハイリスク母児へのケアや援助を通して看護職の倫理的態度について考察を深める。また、ハイリスク児を尊重したケアについて理解できる。	1) 無痛分娩を行う産婦の管理及び助産ケアを指導のもと実践できる。 2) ハイリスク妊産婦の病態、治療方針、管理について理解し、助産過程の展開と対象の状態に応じた助産ケアを、指導者の指導のもと実践できる。 3) ハイリスクの妊産婦の心理的、社会的影響をアセスメントし、包括的なケアを導き出せる。 4) デイベロップメンタルケアなど新生児を尊重したケアについて理解できる。 5) ハイリスク児出生までの経過、児の病態、治療方針について理解し、アセスメントと児の状態に応じたケアについて述べられる。 6) ハイリスク児が家族に与える影響をアセスメントし、家族を含めた包括的なケアについて考察できる。 7) ハイリスク妊産婦やハイリスク児の退院に向けた支援など医療施設内や地域関連施設との連携の在り方について学び考察できる。 8) ハイリスク母児とその家族へのケアの際の助産師の役割と倫理的態度について考察できる。		○	○
40		地域助産学実習	1			6	松浦 志保他	地域母子保健活動について多角的な視点から総合的に理解し、母子保健事業と医療・福祉との連携・協働の実際を理解する。また、助産所での妊産婦および新生児・乳児への助産実践を通し、妊娠期から子育て期における助産実践力の強化を図ると共に助産所の管理運営を実践的に学ぶ、地域母子保健活動における助産師の役割・働き方について考察する。	1) 地域における母子保健事業および母子保健活動の実際について理解できる。 2) 地域の母子保健活動における多職種連携・協働の実際を理解できる。 3) 地域における子育て支援システムについて多角的な視点から総合的に理解できる。 4) 地域における助産師の役割・働き方について考察する。 5) 助産所の経営・管理運営について実践的に学ぶ。 6) 助産所での妊産婦および新生児・乳児への助産実践を通し、妊娠期から子育て期における助産実践力の強化を図る。 7) 助産業務の安全性(判断基準と救急支援システム)を理解し、医療連携システムについて考察できる。 8) 助産所と連携する各施設・団体の活動の実際を理解できる。		○	○
41		地域助産学演習	1		2		松浦 志保他	生涯発達看護学分野の看護・保健・医療・福祉の研究論文のクリティクを行い、女性や家族に関する健康問題や課題、解決に向けた看護実践を見出すためのプロセスを学ぶ。研究テーマとそれに適した研究デザイン、研究計画を検討し、課題研究へと運動させる。	1) 自己の関心領域の研究の現状と問題を多面的に捉え、自らが取り組むべき課題を捉えることができる。 2) 看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。 3) 文献の批判的吟味ができる。		○	○
42		リスクマネジメント論	1			2	津本 優子他	医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえる。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られている。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習する。	1) 医療リスクマネジメントの理念・概念・理論・基本的な方法を理解する。 2) 現場の医療安全推進者としての活動の遂行に必要な基礎的知識と技術を修得する。 3) 医療安全管理者に求められる知識と技術を理解し、その役割を展望する。 4) 医療安全の遂行における情報ネットワークの必要性・重要性を理解する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
43		看護人材育成論	1			2	津本 優子他	本科目では、専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方や方法を、理論的根拠に基づいて学習する。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善点を反映した教育計画を検討することを通して、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を養う。	1)看護学の基礎教育及び継続教育の歴史と現状、課題を理解する。 2)看護専門職のキャリア開発における基本概念、理論を理解する。 3)看護継続教育の実際を批判的に分析し、改善すべき課題を明確化できる。 4)ジェネラリスト育成のモデルプランを作成できる。 5)スペシャリスト活用における課題を明確化し、対策を提示できる。		○	○
44		看護情報管理論	1		2		津本 優子他	看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築におけるの理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授する。	1)看護と情報に関する基本的知識を深める。 2)看護情報システムの在り方や構築方法について理解する。 3)看護情報の標準化について適用を試みる 4)看護情報教育について現状を知り、情報教育の在り方を認識する。 5)地域医療情報システムについて理解し、認識を深める。 6)情報倫理と個人情報保護法について理解する。		○	○
45		保健医療福祉政策論	1			2	榑原 文他	本科目では、少子・高齢化社会のヘルスニーズの変化に対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、未来の医療・保健・福祉・看護等について考察する能力を習得する。	1)少子高齢化が進行する我が国の保健医療福祉政策の動向及び、国民の健康の保持増進を支える政策・制度の重要性と課題について理解する。 2)我が国の看護制度の歴史の変遷、及び国民の健康を支えるための看護制度・政策の重要性と課題を理解する。 3)医療・保健・福祉・看護等の政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、考察できる。		○	○
46		老年疾患治療論	1		2		橋本 龍樹他	老年期に発生頻度の高い疾患や症候群について、高齢者の生体反応の病態生理ならびに臨床的なアセスメントの方法論と最新の治療を学び、科学的根拠に基づく看護実践能力の修得を目指す。	1)老年期疾患の特徴と老化のメカニズムについて説明できる。 2)各種疾患や症候群の検査・治療の概要について説明できる。		○	○
47		認知症看護論	1			2	原 祥子他	認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発する。	1)認知症の診断(評価)と病態像及び障害像、最新の治療について理解する。 2)認知症の人の障害像から生活に及ぼす影響について適切に判断できる能力を養う。 3)認知症の種類、症状、経過にそった、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助に関する理論と実際を学ぶ。 4)認知症高齢者ケアにかかわるスタッフへの教育・相談の実際を学ぶ。 5)認知症高齢者とその家族に対する資源の活用を学ぶ。 6)認知症高齢者の人権擁護と倫理的調整の実際を学ぶ。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身に付 けていること。
48		がん看護病態生理治療学	1		2		選考中	分子標的療法や優れた支持療法の開発に伴い、がんの治療成績は一昔前に比べて改善し、必ずしも死の病ではなくなった。しかし、日本人の二人に一人は何らかのがんに罹患し、死亡原因の一位はがんである。したがって、がんに関わる看護職のニーズは今後益々増加すると予想される。がん患者に対する看護に必要な専門能力を高めるためには、がんの病態を知り、病態に基づいた理論的な治療法とそれらの限界を理解することが求められる。即ち、がん細胞は正常の細胞と比較して何が異なるのか、その結果どのようなことが体内で起きるのか、それらに対してどのように治療戦略が立てられるのか、そして治療に限界が生ずるとすれば原因は何かを理論的に理解する必要がある。本科目では、がんの発生、増殖、分化機構の破たん、転移浸潤、治療抵抗性など、治療や予防に関わるがん細胞特有の分子機構を学び、それらに基づいた治療法と合併症を深く理解することを目指す。	1)がんの発生に関わるゲノム異常、染色体異常を理解し、説明できる。 2)がん幹細胞とがんの進化、がん細胞の多様性を理解し、説明できる。 3)がんの微小環境とがん細胞の相互作用を理解し、説明できる。 4)免疫機構の破たん、炎症、感染ががんの発生に関わる分子機構を理解し、説明できる。 5)がんの増殖機構と薬剤抵抗性の分子機構を理解し、説明できる。 6)がんの転移、浸潤に関わる分子機構を理解し、説明できる。 7)がん薬物療法の原理、限界、副作用を理解し、説明できる。 8)分子標的療法の理論的根拠を理解し、説明できる。 9)造血幹細胞移植の目的、意義、方法と合併症を理解し、説明できる。 10)がんゲノム医療の目的、意義、方法、限界を理解し、説明できる。 11)固形腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。 12)造血器腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。 13)オンコロジー・エマーゼンシーの原因と対応を理解し、説明できる。		○	○
49		がん看護学援助論	1		2		秋鹿 都子他	がん患者の治療・療養過程における複雑な健康問題について理解し、その特性を考慮した問題の アセスメントと専門的看護ケアを提供するために必要な援助方法を学ぶ。そして、がん患者と家族のQOL向上をめざした包括的な支援としてのチームアプローチや専門性の高い看護援助方法について 探究する。	1)がん患者と家族の治療・療養における様々な状況・局面での意思決定プロセスについて学び、がん患者と家族の意思決定支援に向けた看護援助について探究する。 2)がん患者・家族を中心としたチームアプローチについて理解し、専門性の高い看護援助について探究する。 3)がんの予防、スクリーニング、早期発見について学び、その支援方法について探究する。 4)がん患者の治療に伴う全人的苦痛・苦悩について理解し、看護援助について探究する。 5)がん患者の生活や社会的役割をふまえた理解と看護援助について学び、その実践について探究する。 6)がん患者・家族とのコミュニケーションについて学び、その実践について探究する。 7)がんサバイバーの長期的影響について理解し、時期ごとの支援について探究する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
50		がん薬物療法看護論	1		2		選考中	がん薬物療法を基盤に、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)の目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、患者とその家族に必要な援助を提供できる能力を身につける。がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方路、並びに治療中の生活の質を高める看護を探索し、実践展開できる知識と問題解決能力を培う。治療選択の意思決定支援、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)に伴うエビデンスに基づく看護のあり方を学ぶ。 特定看護領域(サブスペシャリティ)に焦点を絞って学習を深める。自らの特定看護領域について 目的意識や問題意識をもって授業に臨み、より質の高い看護実践ができるための知識と問題解決能力を身につける。	1)がん薬物療法を基盤にその目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)を受ける患者とその家族にエビデンスに基づく看護を実践できる能力を身につける。 2)がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、有害事象とマネジメント、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方路並びに治療中の生活の質を高める看護を実践・展開する知識と問題解決能力を身につける。抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)と看護について実践に向けた知識と臨床判断力を培う。 3)治療選択の意思決定への支援、並びにがん患者とその家族のQOLの維持向上を目指したエビデンスに基づく具体的かつ専門的な看護援助について探求する。		○	○
51		緩和ケア論	1			2	秋鹿 都子他	がん患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和するために必要なケアの専門的知識を習得する。また、エンド・オブ・ライフケアの視点による患者・家族のQOL向上を目指した包括的看護介入、リソースの活用、グリーフケアについて探究する。	1)緩和ケアの概念について理解する。 2)がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩について理解する。 3)がん患者のスピリチュアルな苦痛・苦悩に対するケアの実践方法について探究する。 4)がんの補完代替療法について理解する。 5)治療期、医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、在宅療養期、終末期にあるがん患者とその家族の在宅療養支援と地域連携について理解する。 6)エンド・オブ・ライフケアの概念について理解する。 7)アドバンス・ケア・プランニングの実践方法と課題について理解する。 8)終末期の鎮静について理解する。 9)緩和ケアにおける倫理的課題を理解し、その対応について探究する。 10)がん患者の家族の心理的ケアについて探究する。 11)緩和ケアにおける看護師の心理的ケアについて理解する。		○	○
52		フィジカルアセスメント	1		2		調整中	複雑な健康問題を持つ対象者に対して、高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法を、人体の構造と機能に沿って系統的に学習する。さらに、複雑な健康問題を有する事例の検討をとおして、系統的で総合的な臨床判断力を培う。	1)高度実践看護師として、系統的なフィジカルアセスメントを実践するための知識と技術を習得し、身体診察を正確に行うことができる。 2)フィジカルアセスメントから得られたデータを系統的・総合的に解釈し、アセスメントすることができる。 3)事例を用いて、複雑な健康問題を持った対象者に対して系統的・総合的なフィジカルアセスメントを実践できる。		○	○
53		病態生理学	1		2		橋本 龍樹他	複雑な健康問題を持つ対象者の病態を正確に捉えて高度な看護実践を行うために必要な病態生理の知識を、主要な症状や病態に焦点を当てて、人体の系統性に沿って学習する。さらに、臨床判断を求められる頻度の高い症状や病態を呈する患者事例の検討をとおして、病態のメカニズムと治療との関連を理解し、病態を踏まえた高度な看護介入を行うための基盤となる臨床判断力培う。	1)主要な症状や症候について、発生メカニズムを正常な形態と機能との関連から説明できる。 2)主要な症状や症候と所見との関係について説明できる。 3)疾患とそれに伴う症状や症候との関連について理解し、臨床看護判断に活用できる。 4)事例を用いて、複雑な病態を示す対象者に対して病態生理的な変化を解釈、臨床看護判断につなげることができる。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
54		臨床薬理学	1		2		和田 孝一郎他	ケア対象者に実施されている薬物療法について、その薬理作用の正確な理解に基づいて、薬剤使用の判断、投薬後の患者のモニタリング、症状管理、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力向上を図る等、高度な看護実践に必要な薬理・薬剤の知識を学習する。さらに、緊急応急処理、症状調整、慢性疾患管理等の事例検討をとおして、複雑な健康問題を有する対象者の薬物療法を適切に支援するために必要な高度な臨床看護判断力を培う。	1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。 2) 医薬品分類に基づき、疾病の治療や症状管理のために用いる薬物の薬理作用、適用、投与時の留意点と投与後のモニタリング、副作用出現時の対処について理解する。 3) 薬物療法を受けているケア対象者の服薬管理能力向上のための介入計画を立案できる。		○	○
55		助産フィジカルアセスメント方法論	1		2		松浦 志保他	妊娠・分べん・産じょく・新生児期の正常からの逸脱の判断、異常発生を予測する能力、予防的に行動する能力、母体の急変時・異常時に対応できる実践能力の修得のための基礎的知識と技術を修得し、妊娠・出産・産褥期の診察診断能力を向上する。女性の生涯における健康課題や問題に対して必要とされる知識・技術を修得する。	1) 超音波検査の操作技術と妊娠期・産褥期の女性と胎児の超音波画像評価能力を修得する。 2) 会陰切開、裂傷縫合の基礎的知識と技術について理解する。 3) 新生児の救急蘇生に対応するための知識と技術を修得する(NCPR Aコース)。 4) 母体急変時や異常時の早期対応に必要な知識と技術を修得する(IOLSコース、ALSOプロバイダーコース)。 5) 妊娠・出産・産後に伴って生じるインナーユニットへの負担・機能障害について理解し、マイナートラブルの予防・ホディケアの方法について学修する。 6) 女性生殖器の診察に必要な視診の一つである腔鏡診の実施方法を習得する。		○	○
56		女性の精神保健学	1		1		松浦 志保他	周産期メンタルヘルスクアの重要性について学修し、妊産婦および子育て期にある母親の心のケア、母親としてのアイデンティティ形成、愛着形成への支援をするための基礎知識及び技術について学修する。 女性の各ライフステージ、特に思春期のメンタルヘルスに影響する疾患について基礎知識を学ぶ。	1) 妊産婦にみられるメンタルヘルスの不調や精神疾患の特徴、診断、治療、スクリーニングなど基礎知識について理解する。 2) 妊産婦メンタルヘルスクアの基本的な対応法(コミュニケーション法、面接技法)、について理解する。 3) 周産期メンタルヘルスクアにおける多領域協働チームの活動の実践について学修し、チーム活動における助産師の役割について考える。 4) 女性の各ライフステージ特に思春期のメンタルヘルスについての基礎的知識を理解する。 5) 親のメンタルヘルスと子どもの発達の間連について学修し、女性のメンタルヘルスクアの重要性について理解する。		○	○
57		異文化コミュニケーション論	1			1	松浦 志保他	国内外の異文化と多様性を理解し、海外における助産活動と国内の在日・在留外国人母児と家族などの異なる文化や価値観をもつ対象へのケアや支援を行う能力を培う。また、国内外の災害時における母児への助産ケアについて学ぶ。	1) 人間の基本的な人権を理解し、多文化が共生することの基本原則を理解できる。 2) 様々な文化を持つ人々に、看護職としての基本的姿勢・態度および役割を説明できる。 3) 自分の身近にある「異文化」を認識し、考察できる。 4) 様々な異なる文化的背景について理解した上で、考えられる異文化／多文化による摩擦や人々の生活上の問題点を説明できる。 5) 助産・看護活動における異文化問題についての考察と対策について考えることができる。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程									学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)			
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
58		家族看護援助論	1			2	矢田 昭子他	1)看護学における家族を理解し実践するための概念や諸理論、研究動向を学び、看護の 対象としての家族について理解を深め探求する。 2)さまざまな状況にある家族に対して包括的な支援が提供できるよ、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護援助を探求する。	1)家族看護学の発展過程と求められる看護を理解する。 2)家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる概念や理論を理解する。 3)地域や臨床における家族看護の実践に向けて、家族アセスメント及び支援について 説明する 4)健康レベルや発達をふまえた様々な事例に対して、理論を用いてに応じた看護実践に活用できる知識を獲得し、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護支援を検討・提案する。		○	○
59		看護理論	1		2		古賀 美紀他	本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高める。	1)看護理論開発の歴史を概観し、これからの看護理論の発達に対する見識を深める。 2)看護理論家の著書を講読し、理論の分析を行って看護理論の構造や特徴を理解する。 3)どのような対象者にどのような場面や状況下で看護理論を適用させるのか、事例をとおして看護理論の看護実践への活用方法を検討する。 4)看護実践における理論活用の意義と理論開発の必要性を考察する。		○	○
60		看護倫理	1		2		加藤 真紀他	本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの方考え方を身につけ、看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを判断する。さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、臨床における倫理的調整を図るための問題解決力・調整力を養う。	1)倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。 2)看護実践における倫理の基本概念を理解する。 3)倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。 4)看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法を理解する。		○	○
61		コンサルテーション論	1			2	古賀 美紀他	本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための実践的能力を養う。	1)保健・医療・福祉領域のケア提供者の職務遂行上の問題解決過程における相談・支援活動の目的と方法について理解する。 2)コンサルテーションの理論を学び、その概念、モデル、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割、および活動の方法について理解する。 3)職員のメンタルヘルスに関するコンサルテーションに必要な諸理論と職場におけるストレスマネジメントの具体的方法を理解する。 4)看護実践に関するコンサルテーションについて、個人、集団、組織に対するコンサルテーションの具体的方法を理解する。		○	○

医学系研究科看護学専攻博士前期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)		
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	主担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3
										修士論文の作 成をとおして、 体系的な研究 方法を身につけ ていること。	専攻した看護学 専門分野の高度 な知識と技術を 身につけている こと。	組織的に問題 解決を図るため の総合的な判 断力とリーダー シップを身につ けていること。
62		看護研究方法演習	1		2		津本 優子他	本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学ぶ。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されている。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指す。	1) 看護研究の目的と意義を理解する。学習と研究の相違、問題解決過程と研究過程の相違をふまえ、看護研究のプロセスを理解する。 2) 研究デザインおよび主な研究方法の看護研究への適用について理解する。 3) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的方法を理解する。 4) 量的研究のデータ分析に必要な基本的な統計解析の方法を理解する。 5) 質的研究のデータ分析に必要な質的帰納的アプローチの方法を理解する。 6) 文献をクリティックして質の高い研究論文を、実践、研究、管理の問題解決に活用する方法を理解する。 7) 研究計画の全体像を理解する。		○	○
63		看護学特別研究	2	8			津本 優子他	*看護援助学コース(担当:古賀美紀教授) 現代および将来を見据えたヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的思考力を獲得し、看護援助に関する現象や看護技術の検証と新たな看護援助の開発を目指して教育・研究を行う。 *看護管理学コース(担当:津本優子教授) 自己の看護専門職としての関心、及び、特論及び演習で学んだことを基盤に、看護管理に関する研究課題を見出して研究を実施し、その結果を論文にまとめる。 *地域・在宅看護学コース(担当:伊藤智子教授) 地域で生活する人々の健康と生活を支援する看護に関する研究課題を見出し、研究論文を作成する。 *母子看護学コース(担当:秋鹿都子准教授) 小児・母性の健全な成長・発達を支えるための看護支援の方法について分析し、看護の科学的根拠を見い出して成果を論文にまとめる。 *がん・成人看護学コース(担当:橋本龍樹教授) がん患者とその家族が直面する健康問題を広く検討し、がん看護に関する研究課題を見出し、患者家族のQOL向上を目指して新たな知識を創出し、成果を論文にまとめる。 *高齢者看護学コース(担当:原祥子教授、加藤真紀准教授) 高齢者の健康と生活を支える多様なケアサービスに関する課題を見出し、高齢者の健康生活の向上を目指した看護実践を追究し、論文を作成する。	1) 研究計画を立案し、研究計画に沿って研究活動を展開できる。 2) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。	◎	◎	◎